

二〇〇八年一月二六日

蒼き空銀杏落葉の降りやまず	まさる
連山の主峰最も紅葉濃し	〃
日溜りの樹下に一叢石踏黄なり	ひかり
ビル影の運河に乱舞百合鷗	〃
碧天にひかり撒くごと銀杏散る	宏 虎
病棟の窓に黄落始まりぬ	けんいち
古稀迎ふ友へ真紅の薔薇贈る	わかば
落葉降る笠を目深に親鸞像	菜 々
六車線大路の左右に銀杏散る	きづな

吟行句会みの選

二〇〇八年一月二六日